

それが見えるまで

東大和市立第一中学校 三年 谷口 明寿香

その電柱を認識したのは、特別な事など何もない、普段の学校の帰り道の事であつた。折れていた。正確にいうと、折れかかっていた。ヒビは電柱の下あたり（下から1mくらい？）をぐるりと、ほぼ一周していたし、電線は引き千切られたのか垂れ、風に乗り、ぶらんぶらんとしていた。ガードレールはひしやげていた。明らかに、事故が起こつた跡だった。純粹に驚いた。いつ起こつたのだろう。そんな事を考えながら帰宅した。

母に話すと、怪訝な顔をされ、言われた。

「4日前からああだつたけれど。」

知らない事実を言われた。どうやら事故は、4日前には既に起こつていたらしい。週に五日はあの場所を通つている私にとって、その言葉は私を思考停止に追い込んだ。ちなみに事故があつたのは5日前らしかつた（調べた）。特に意識も注目も向けてはいなかつたが三角コーンやブルーシートがあつた事に気付かないのは、気付けなかつたのは、いかがなものかと思つた。見ようとしないものは、自然と視界に入りにくくなつていると知つた。その晩、私はインターネットを用いて、ああいう事故で起きた被害はいくら程で直せるのか、調べてみた。数万円から、高ければ数百万にもなるとという事だつた。私はなんとなく事故を起こした人（顔も名前も知らない）に同情した。その後、更に調べてみるとある記事をみつけた。そこには、税金の一部が事故等で破損した物々の修理費にあてがわれる」と書いてあつた。オフィシャルなサイトでは無かつた為、百分信用は出来ないけれども、もし本当には、税金の一部が事故等で破損した物々の修理費にあてがわれる」と書いてあつた。『税金は建造物や上・下水道の整備の維持にあてがわれている』と書いてあるのを見つけた。驚いた。昼間以上に。何ていつたつて、知らなかつたから。

私は今まで、税金に対してもあまり良い印象は持つていなかつた。安倍首相のアベノマスクや、岸田首相の大変不名誉な渾名などから税金は集めても意味のない、むしろマイナスなものだと思い、今の今迄生きてきた。しかし、違つた。私は見ようとしていないだけであつた。税金は私達が普段あたり前の様に流し見ている景色を形づくつていた。素晴らしい事だと思う。少し調べてみるだけで、少し周りを見渡してみるだけで見える景色が、当たり前が美しく見える様になるのだ。